

IT 活用実践事例

小学校
4年
総合

「名水百選」がある全国の学校集まれ！

～学校間交流サイトを活用して、地域の情報を交流し合う～

実践者：栗原市立高清水小学校 菅原 博

1 学習の概要

キーワード

地域学習

学校間交流学習

Web サイトによる情報交換

環境教育

IT 活用のポイント

- ・高清水の名水「桂葉清水」についての地域学習から、「名水百選」をテーマにした全国の小学校との交流学習へ発展させる。
- ・学校間交流サイト「名水百選なかよしプロジェクト」を活用することによって、遠隔地の学校との情報交換を実現する。

単元名

調べよう七清水！ 広げよう名水の輪！

単元の目標

地域の自然について課題や問題を発見し、調査することができる。
地域の人や他校の児童と積極的にかかわりながら視野を広げ、考え方を広げることができる。

本時の学習

地域の名水について調べたことなどを掲示板に書き込み、話し合う。

本時の目標

他県の学校の友達にも、高清水や宮城県よさが伝わるように、紹介の内容や表現の仕方を工夫して考える。

本時の活用コンテンツ

学校間交流サイト「名水百選なかよしプロジェクト」(自作)

- ・使用ソフト Web ページ作成ソフト /Homepage Builder V9

補助資料

学校間交流サイト「名水百選なかよしプロジェクト」(自作)

<http://www.takasimizu.sakura.ne.jp/>

単元計画 (35時間扱い)

第1次 調べよう七清水！

- 1 七清水について知っていることを話し合おう
- 2 みんなで七清水めぐりをしよう
- 3 課題を決め、調べる計画を立てよう
- 4 地域に出かけ、調べよう
- 5 調べたことをまとめ、発表しよう

第2次 広げよう名水の輪！ (IT活用場面)

- 1 「名水百選なかよしプロジェクト」に参加しよう
 - ・「名水百選」について知り、他校との交流に意欲を持つ。
 - ・掲示板に学校紹介や学級紹介の書き込みをする。
- 2 プロジェクト参加校を知ろう
 - ・参加校について調べ、交流相手について理解を深める。
 - ・学校や地域の自慢、名水の紹介などの書き込みを通して、交流を深めていく。(本時)
- 3 プロジェクト参加校ともっとなかよくなるよう
 - ・チャットを使ってリアルタイムの交信を行う。
 - ・Web カメラ等を使って、画像と音声を使った交流を行う。
 - ・地域の特産物を送り合うなどして、さらに交流を深めていく。
- 4 名水を守っていくために話し合おう
 - ・「名水を守っていくために」をテーマに、参加校で話し合い活動を行う。

本時の学習 (45分)

学習活動	指導上の留意点
1 本時の活動について知る。	・どのように書き込めば、他県の友達にも分かるようになるか考えさせ、表現を工夫させる。 ・事前にデジタルカメラで画像を準備しておき、画像も一緒に投稿させる。 ・相手を不快にさせたり、個人情報につながる書き込みをさせたりしないように気を付けさせる。
2 学校や地域の自慢、名水の紹介について、分担する。	
3 掲示板に書き込む内容についてグループで話し合う。	
4 掲示板に書き込む。	
5 書き込んだ内容について発表し、みんなで確認する。	

2 実践のポイント！

交流で高まる学習意欲！

「全国の小学校の子供たちと友だちになれる」ということに対する児童の関心と期待は想像以上に大きいものであった。

はじめてプロジェクト参加校が現れたことを告げたときは、大きな歓声と拍手が起こった。子供たちはこの、「名水百選なかよしプロジェクト」の学習を非常に楽しみにしており、今週は、どの学校からどんな書き込みがあったらうかと期待しながら、はりきって活動している。

現在、サイト内の「プロジェクト参加校MAP」には、4校が紹介されている。子供たちは、この交流の輪がさらに広がっていくことを期待している。

「伝える」意識の変容！

現在、熊本県、大分県、福井県などからプロジェクトへ参加していただいている。そうした学校の子供たちは、宮城県はもとより、東北地方についての知識さえあまり持っていない。

そこで、そうした他県の学校の子供たちにも自分たちの地域や学校について分かりやすく「伝える」ためには、どのような内容について、どのように表現すればいいかを考えさせている。学校名だけでなく県名を入れて書き込んだり、地域の特産物として「米」を紹介したりするなど、これまでの、教室内や学校内での発表とは違った伝え方の工夫により、自分の地域について見つめ直させている。

3 子どもたちは？

子どもの姿

- ・プロジェクト参加校がはじめて現れたとき「やったー！」という歓声と大きな拍手が起こった。
- ・「先生、また書き込みあったよ！」と、うれしそうに掲示板をチェックする姿が見られた。
- ・「熊本の人に自慢できる宮城県のものって何だろう。」と考えさせたところ、「おいしい米」という意見が出てきた。校内での活動ではあり得ないことである。

子どもの声

- ・全国に友達ができるのがうれしい。もっと、たくさんの方に学校に参加してほしいです。
- ・高清水のことや宮城県のことをもっと紹介したいし、いろいろな県のことをもっと知りたいです。
- ・今度は「TV会議」してみたい。

地域の異同への気付き！

新たにプロジェクト参加校が現れたとき、すぐに日本地図で相手の学校の位置を確認させたり、相手の学校のホームページを閲覧させたりしてきた。子供たちは、**学校周辺の環境の違いや学校独自の活動に驚き、目を輝かせていた。**

一方では、**地域の名水を保全する活動等については共通点もあり、環境問題が全国的な問題になっていることも確認することができた。**

今後、「水」をテーマにして、チャットやWebカメラを使っての話し合い活動を展開し、さらに地域による自然環境や考え方の違いに触れさせ、子供たちの視野を広げさせていきたいと考えている。

